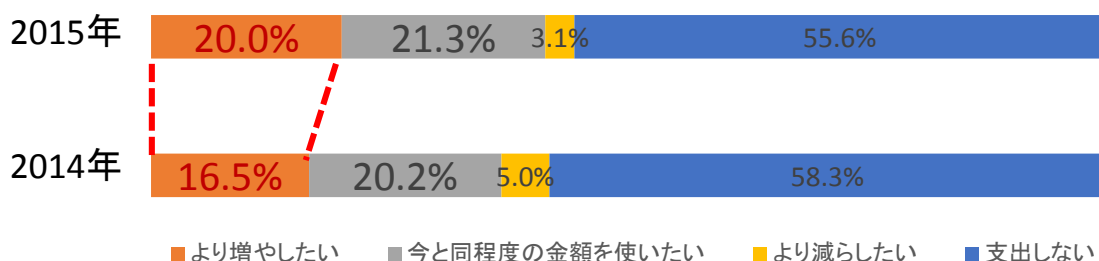


生活に関する調査レポート2015 03 ～消費意欲について(住まい編)～

レポート01、02では、多くの女性たちの感じる「今の幸福度」について、また、消費に対してどういった意識を持っているのかについて発表しました。03からは、消費項目別に、どういったコト、モノに対して前向きなのか、逆にどういったコト、モノに対しては控えたいと思っているのか、傾向を探っていきます。今回は「住まい」に関する消費意識調査をお届けします。

調査方法：インターネットによるアンケート、追加メール取材
調査対象：小学館の女性誌を読んだことのある全国の20～50代の女性1177名

自分の住む家(マンション)を買う

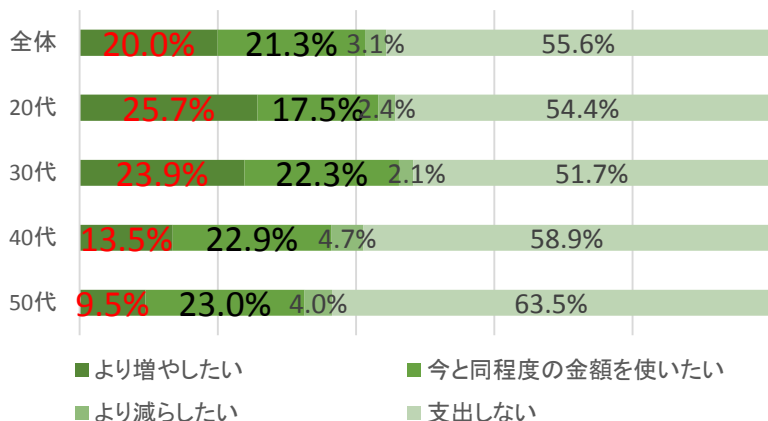


“幸せ”に必要な不可欠ではないけれど、やっぱり買いたい“家”

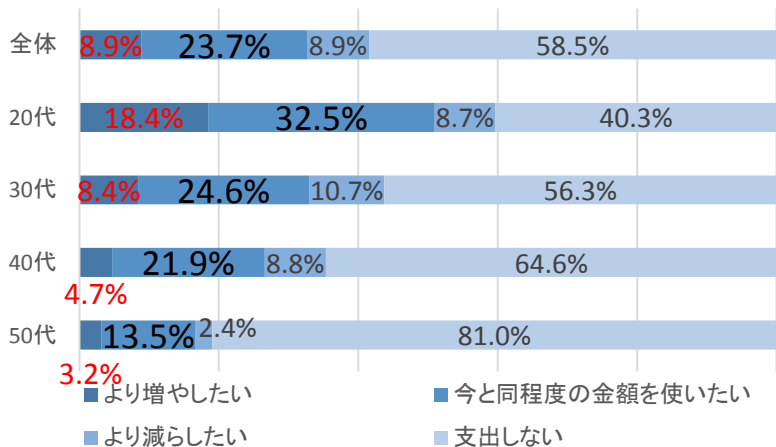
レポート01にて発表した「幸福な人生に欠かせないものは？(複数回答可)」という質問に対し、多くの人が「経済的な余裕」(85.9%)、「健康」(83.9%)と回答し、「家の所有」を選んだ人はわずか14.9%。その結果にも関わらず、住まいを買うことに支出を増やしたいと思っている人の割合は、2014年の16.5%に比べ、2015年は20.0%に向上。「支出しない(2014年 58.3%、2015年55.6%)」項目を選んでいる人には、買わないと決めている人のほか、すでに支払いを終えている人も含まれる点を考慮すると、現段階で「家の購入にもっと支出したい」(2015年 20.0%)、「今と同程度の金額を使いたい」(2015年 21.3%)と、**41.3%の女性が家の購入に対して意欲的**であるのは、予想外の数値となりました。次のページでは、その内訳について見ていきます。



自分の住む家(マンション)を買う



自分の住む家(マンション)を借りる



20代、30代はさらに家の購入に意欲的

前頁の2015年の「自分の住む家(マンション)を買う」項目を年代に分けてみると、まだ家を買っていない、あるいはローンを支払っている途中であろう、20代30代の方は、さらに高い数値(20代 25.7%、30代 23.9%)で家の購入を前向きに考えていることがわかります。

一方で賃貸についてのデータも調べてみたところ「今と同程度の金額」を考えている人が一番多い23.7%。ライフプランが定まっていない場合が多い20代だけで比較しても、消費を積極的に増やしたいのは「購入」となりました。50代になると、81.0%の人が賃貸に「支出しない」と答えているので、いずれかのタイミングで購入なり相続なり、「自分の家」を手に入れている人が多いと推測できます。

研究所まとめ

車も家も買わない若者、といわれる風潮とはうらはらに、2015年は若い世代も家の購入を積極的に捉えている人が多いことがわかりました。02の「消費の傾向に関する調査」と併せて考えると、幸せの必須条件ではないけれど、自分にとって住まいは必ず必要で、家賃や快適性を考えると、長く住める家を吟味して買ってしまったほうが良い、と考えている人が多いことがわかります。一生を左右する大きな買い物であることは間違いないので、吟味する俎上に載ることさえできればまだまだ住宅の販売についてアプローチする余地がありそうです。

調査結果に関するお問い合わせ

株式会社小学館 女性インサイト研究所 担当:安念

TEL: 03-3230-9774 E-mail: pr-islab@shogakukan.co.jp

<http://www.insightlab.jp/>